

施工説明書

ピピットプラス

高天井対応 PiPit+ セパレートセルコン Aタイプ (直付)

(以下本書での製品呼称を「PiPit+セパA」と表記)

品番：NQ23185K (直付)

・器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

工事店様へ 正しく施工するために必ずお読みください。
施工後、必ずお客様に商品説明をしていただき、本書と取扱説明書をお渡しください。

安全上のご注意

必ずお守りください

警告

- 施工は、取付方法にしたがい確実に行う。施工に不備があると落下・感電・火災の原因となります。
- 断熱材、防音材をかぶせて使用しない。火災の原因となります。
- 器具の改造は行わない。落下・感電・火災の原因となります。
- 天井取付専用器具です。指定外取付は落下の原因となります。
- 表示された電源電圧(定格電圧±6%)・周波数以外の電源で使用しない。感電・火災の原因となります。

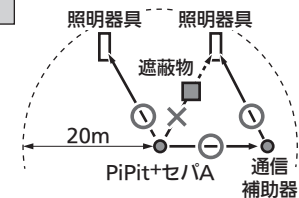
注意

- 一般屋内用器具です。直接雨・風のあたる場所や湿気のある場所、振動や衝撃の多い場所、粉じんや腐食性ガスの発生する場所では使用しないでください。落下・感電・火災の原因となります。
- 周囲温度-10℃～40℃で使用してください。(一時的に50℃まで上昇する場所でも使用は可) 指定外周囲温度での使用は短寿命の原因となります。
- 本器を取り扱う際には手袋などの保護具を使用してください。けがのおそれがあります。

施工に関するお知らせ

「見通し距離20m以内」は高さ6m未満で使用する場合です。
高さ6m以上の見通し距離は6ページ目以降を参照ください。

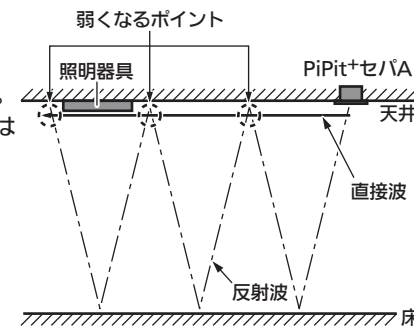
- PiPit+ハンディライコン (NK23091) は必ずご購入ください。設定操作に必要になります。
- 右図のように照明器具はPiPit+セパAから見通し*距離20m以内に設置してください。
- 壁や柱などの遮蔽物で照明器具を直視できない場合は通信補助器を設置してください。
通信補助器はPiPit+セパAから見通し距離20m以内で、PiPit+セパAと照明器具両方を見通せる位置に設置してください。



*見通しとは、PiPit+セパAから照明器具が直視できる状態です。

- 下記のような使用環境では、電波ノイズを受けたり電波の到達距離が短くなります。このような場合は、動作しないことがありますのでご注意ください。
 - ・本器と照明器具間に金属や鉄筋コンクリートなどの電波を通しにくい障害がある。
 - ・金属物に本器を取り付けている。
 - ・操作する人の体の向きで電波を遮っている。
 - ・本器と照明器具間にある壁面内の断熱材にアルミ箔を貼り付けたグラスウールを使用している。
 - ・本器周辺が金属物で囲まれている。(スチールキャビネットの間、カラオケボックスなど)
 - ・本器または照明器具の近くで、直流電圧で駆動するベルやモーターなどの機器が動作している。
 - ・本器または照明器具の近く(10m以内)で、マイクロ波治療器を使用している。
 - ・近くに、テレビ・ラジオの送信所近辺の強電界地域または各種無線局がある。

- 送信電波が医療電気機器に与える影響はきわめて少ないものですが、安全管理のため、照明器具と本器は医療電気機器から20cm以上離してご使用ください。
- 電波ノイズを受けると、誤動作や動作しない原因になります。
- 内装変更で遮蔽物が介在するなど、通信環境を変更した場合は予め動作を確認してからご使用ください。
- 異常な動作をした場合などにすぐに電源を遮断できるように照明器具の電源には、別途スイッチを必ず設けてください。
- 右図のように到達距離範囲内でも電波が弱くなる場合がありますのでご注意ください。
- 本器は壁、窓、天井まで達する仕切りやパーティションから50cm以上離してご使用ください。



仕様

定格電圧	AC100-242V (50/60Hz)
使用温度範囲	-10~40℃ (結露なきこと、一時的に50℃まで可)
制御方式	無線通信 (中心周波数 927.2MHz)
通信距離	見通し距離20m (体育館で高天井器具使用の場合、見通し35m)
適合負荷	当社製PiPit調光シリーズLED器具 (起動方式：RZ)

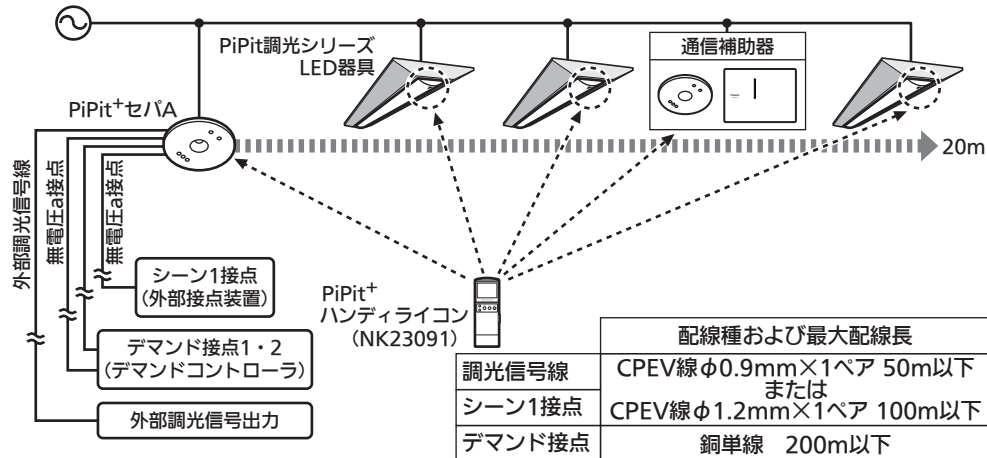
- 付属品：施工説明書(本書)1部、取扱説明書1部

無線通信(電波)に関して

- ・本器には認証済みの920MHz帯特定小電力無線設備を内蔵しています。
- ・この920MHz帯特定小電力無線設備は分解・改造することは法律で禁じられています。
- ・この920MHz帯特定小電力無線設備は外国の電波法には適合していません。日本国内でのみ使用可能です。

システム構成図

- PiPit+セバAとPiPit調光シリーズLED器具およびPiPit+ハンディライコンでシステム構成は完成します。
- 当社製スーパーマーケットセルコンや無電圧a接点などの外部連動との組み合わせにより、システムを拡張することも可能です。

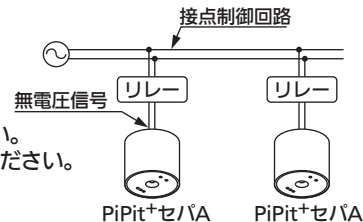


※ PiPit調光シリーズLED器具の電源を、制御するPiPit+セバAごとに分けておくと、ペアリング設定は「かんたん設定」で行うことができます。
電源を同じ系統にした場合、ペアリング設定は「确实設定」で行ってください。

名称	品番	説明
PiPit+セバレートセルコンAタイプ	埋込 NQ23171Z 直付 NQ23185K	本コントローラ (PiPit+セバレートセルコンAタイプ) になります。
通信補助器	埋込 NK23071 直付 NK23081 壁付 NK23010	3タイプのいずれも使用することができます。
PiPit調光シリーズLED器具	カタログ参照	当社製PiPit調光シリーズ専用の照明器具になります。
外部接点装置、デマンドコントローラ	—	市販の無電圧a接点タイプの外部接点装置になります。
外部調光信号出力	FSK91060U	スーパーマーケットセルコンになります。
	NQ28861K NQ28841K	ライトマネージャーFxになります。
	NK51012	PD/調光信号変換インターフェースになります。 ※PD/調光信号変換インターフェースは「マルチ調光調色システム」内での使用になります。
PiPit+ハンディライコン	NK23091	PiPit専用コントローラ、通信補助器、PiPit調光シリーズLED器具の設定・操作用リモコンになります。

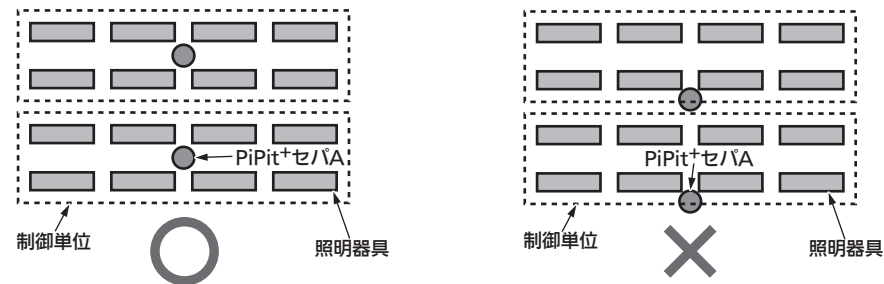
配線設計上の留意点

1. 無電圧a接点接続線、外部調光信号線は小勢力配線ですので、電源線とは接触しないように配線してください。
2. 無電圧a接点は複数のPiPit+セバAでの共用はしないでください。一括連動される場合は、右図のようにリレー回路等をつけてください。
3. 無電圧a接点には、ほたるスイッチを使用しないでください。

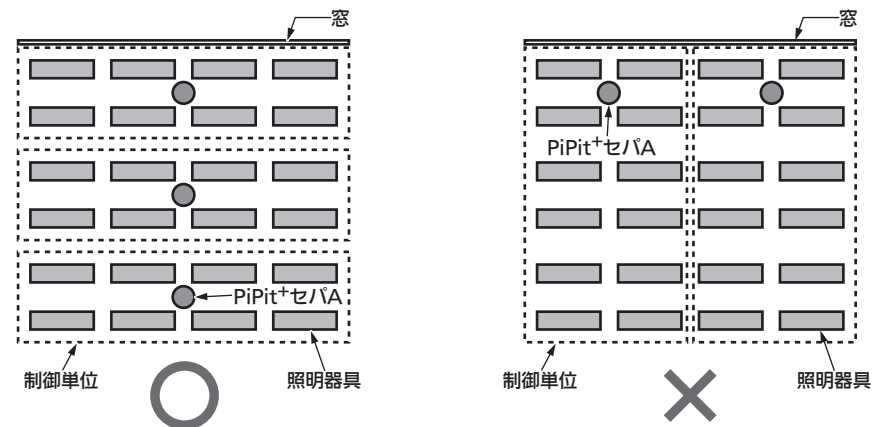


器具配置上のご注意

1. 設置面照度が約15~1000[lx]となるような明るさセンサ検知範囲内の反射率環境としてください。設置面照度が約15[lx]を下回るか、約1000[lx]を超える場合、明るさ設定をすることができません。
2. 検知範囲が制御器具を重点的にカバーする場所にしてください。多数灯の照明器具を一括制御しますが、制御はセンサ検知範囲内からの反射光で行っていますので、制御単位の検討には十分配慮してください。(下図参照)



3. 昼光利用のため、PiPit+セバAを窓際に設置する場合は、窓からの距離は(天井高さ÷1.3)m以上離してください。窓に近づけて設置するとセンサが昼光を直接感知し、照明器具の出力を抑え過ぎてしまう原因となります。
4. 下図右のようにPiPit+セバAを配置すると、窓から離れた場所では照度が不足する恐れがありますので、下図左のように窓から離れるにつれてPiPit+セバAを複数台設置することをお勧めします。

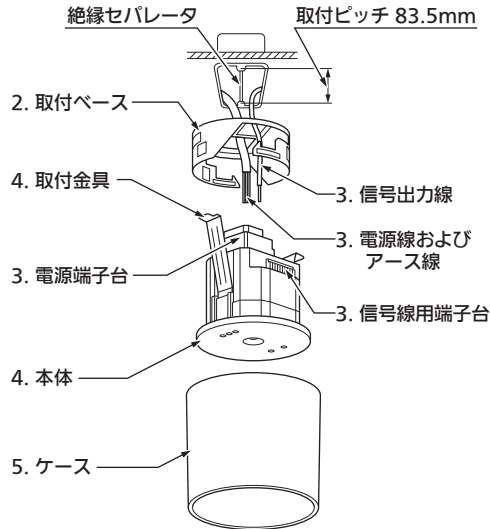


5. センサ検知範囲内にロッカーなどの高い什器が配置された場合、検知範囲内の反射率が変化するため制御したい場所の明るさを適正に制御できない場合があります。
6. PiPit+セバAが壁面やパーティション近傍などに設置された場合、壁面やパーティションなどの反射光の影響を受け、制御したい場所の明るさを適正に制御できない場合があります。
7. PiPit+セバAの制御単位以外の照明器具からの光がセンサ検知範囲内に入射したり、空調などで照明器具の明るさが変化したりすると、制御したい場所の明るさを適正に制御できない場合があります。

各部の名前と取り付けかた

天井高さ6m未満で使用する場合

埋込ボックスをご使用される場合は、1ヶ用スイッチボックスにボックス用絶縁セパレータを設置し、電源線と調光信号線を分けて配線してください。



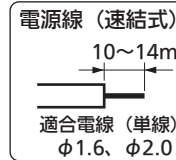
1. 取り付け前の確認

- 器具質量 (0.6kg) に十分耐えるようにネジ取付部 (ネジの掛かり代) の強度を確保する。
不備があると器具落下の原因となります。

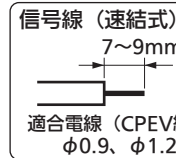
2. 取付ベースの取り付け

- 本体を取付ベースから取り外す。
(出荷時は、取付ベースと本体は取付金具で嵌合してあります)
- 電源線、信号線を取付ベースの各引込穴から引き込んでおく。
- 取付ベースをネジで確実に取り付ける。
(本ネジをご使用の際は、丸木ネジの呼び4.1以上を使用する)

3. 電源線・信号線の接続

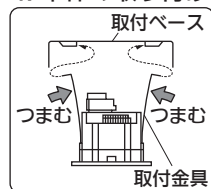


- 電源線を本体の電源端子台に確実に接続する。
- D種 (第3種) 接地工事が必要です。
- 電源端子台の送り容量は、20Aです。
接続が不完全な場合や容量オーバーの場合、火災の原因となります。



- 信号線を本体の信号用端子に確実に接続する。
- 結線終了後、電線にねじり力など無理な力が加わらないよう処理を行ってください。

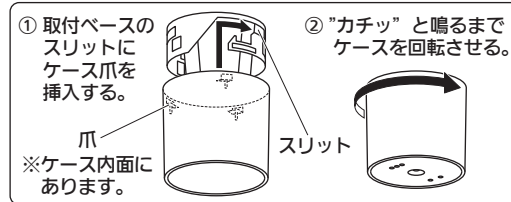
4. 本体の取り付け



- 本体を取付金具をつまみながら取付金具を奥までしっかり挿入し取付ベースに確実に取り付ける。不備があると器具落下の原因となります。

5. ケースの取り付け

- ケースを取付ベースに取り付ける。不備があるとケース落下の原因となります。



～施工完了～

6. 各種設定

- 無線設定、明るさ設定、通信補助器設定などの各種設定については、取扱説明書をご参照ください。

使用上のご注意

- 多数灯を一括で制御しますが、明るさセンサにより観測している照度はセンサ検知範囲内 (設置高さ2.5mで約φ4m) です。その他の範囲は設定照度から外れることがあります。予めご了承ください。
- センサ検知範囲内の反射率が大幅に変化する際 (人が密集する場合等) には光出力が変化することがありますので予めご了承ください。
- 取り付けられる環境 (天井、壁、床などの反射率、外光の強弱など) によっては、照明器具の光出力にバラツキが生じ、輝度ムラが生じることがありますが、異常ではありません。
- 省エネ効果を保つために年1回の清掃をお勧めいたします。
- リモコンによる明るさ設定は、什器などが搬入された最終使用環境において行ってください。
・什器などの搬入前のオープンスペースで明るさ設定を行っても、什器などが搬入されるとセンサ検知範囲内の反射率環境が変化してしまい、設定した明るさが変化してしまいますので、明るさの再設定が必要となります。
- 外部調光信号出力にスーパーマーケットセルコンを接続した時、PiPit+ハンディライコンで確認した調光レベルとスーパーマーケットセルコンで表示される調光レベルは異なる場合があります。

高天井 (6~15m) で使用する場合

⚠ 注意

- 必ず専用の取付金具と組み合わせて使用してください。落下の原因となります。
- ボールが直接当たる環境では、必ず専用防球ガードと組み合わせて使用してください。落下の原因となります。
- 適合以外の器具と組み合わせて使用しないでください。落下の原因となります。

適合器具

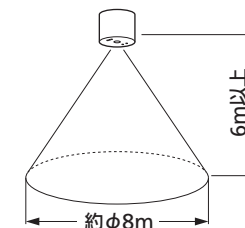
専用取付金具	NK23060 (別売)
専用防球ガード	NK23062 (別売)

施工に関するお知らせ

- 体育館で高天井用の照明と組み合わせ使用する場合、35m以内に設置してください。(その他の環境、照明器具との組み合わせの場合、通信距離は20m以内になります)
- その他の施工に関するお知らせは、2ページを参照ください。

使用上のご注意

- PiPit+ハンディライコンを使用する場合、本器の真下1m以内で、PiPit+ハンディライコンを本器に向けて使用してください。PiPit+セパAを密接設置した場合は、ペアリング設定の前にPiPit+セパAを『高天井モード』に設定してください。(本書7~8ページ参照)
- 明るさの検知範囲は、6m以上の場合、約φ8mとなります。



高天井モード設定が必要な場合

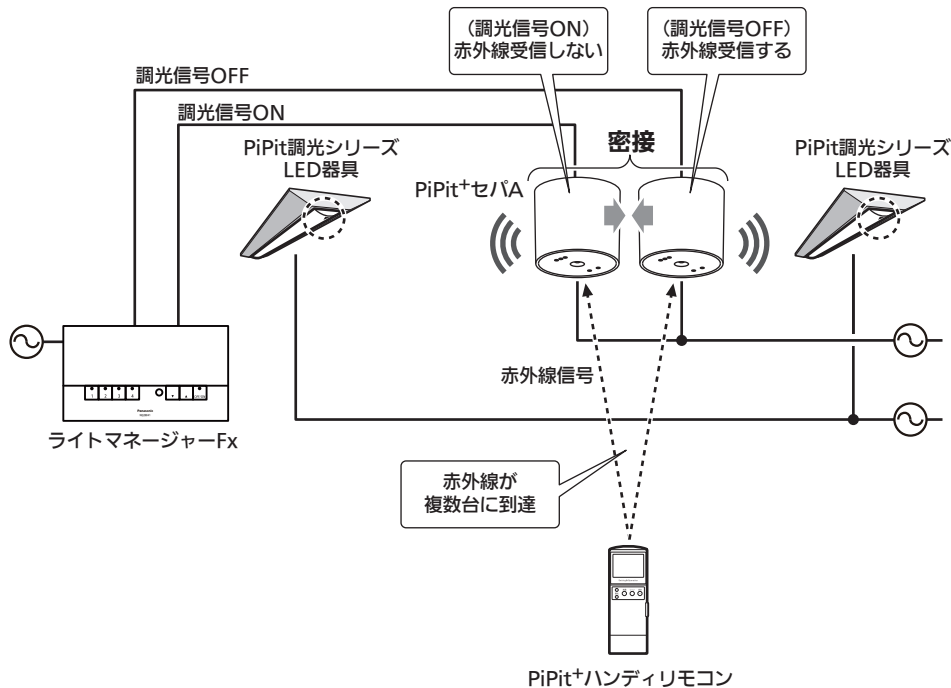
※PiPit+セパAを密接設置していない場合は、以下の手順は不要です。

複数PiPit+セパAを密接して設置、かつライトマネージャー-FxからPiPit+セパAに調光信号線を接続している場合は、ペアリング設定の前にそれらのPiPit+セパAを高天井モードに設定してください。

PiPit+セパAを密接設置した場合、赤外線が複数台に到達するため、1台のPiPit+セパAのみにPiPit+ハンディライコン操作による赤外線信号を送信することができませんが、ここでPiPit+セパAを高天井モード設定することで、ライトマネージャー-Fxからの調光信号が「OFF」のPiPit+セパAのみ、PiPit+ハンディライコンの赤外線信号を受信します。

これにより、予めライトマネージャー-Fxで1台のPiPit+セパAの調光信号を「OFF設定」しておくことで、1台のPiPit+セパAに対してペアリング設定などのPiPit+ハンディライコン操作ができます。なお、密接したPiPit+セパA全てに調光信号線を繋ぐ必要はありませんが、接続先は同じライトマネージャー-Fxでなくても構いません。

※調光信号のOFF方法は、ライトマネージャー-FXの取説を参照してください。



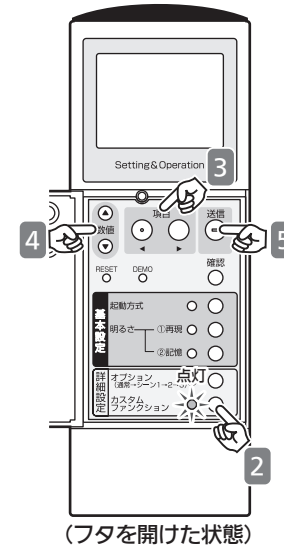
注

複数のPiPit+セパAを密接設置する場合は、それぞれのPiPit+セパAを個別の調光信号で接続してください。同一の調光信号を「送り」で接続した場合には、上記例で個別に調光信号をON/OFFすることができず、それぞれのPiPit+セパAのペアリング設定ができません。

高天井モード設定のしかた

ペアリング設定の前に、密接設置したPiPit+セパA全てに対して設定してください。1回の手順で複数のPiPit+セパAをまとめて設定しても問題はありません。

PiPit+ハンディライコン



- 1 PiPit+セパAに電源を入れる
- 2 PiPit+ハンディライコンのフタを開け『カスタムファンクションボタン』を押す
- 3 『項目ボタン』を押し「11」を選択する
- 4 『数値ボタン』を押し「ON」を選択する
- 5 PiPit+セパAに向け『送信ボタン』を押す

※高天井モード設定を解除する場合は、上記手順4で「OFF」を選択してください。

高天井モード設定時のセパA動作

高天井モード設定したPiPit+セパAは、ライトマネージャー-Fxからの調光信号OFFでは、PiPit+ハンディライコンの全ての操作を受信します。ライトマネージャー-Fxからの調光信号ONでは、PiPit+ハンディライコンのほとんどの操作を受信しませんが、一部の操作（下表）のみ受信します。

調光信号ONで受信するハンディリモコン操作
高天井モード設定
自動ボタン

高天井モード設定時のPiPit+ハンディリモコン操作

高天井モード設定したPiPit+セパAにPiPit+ハンディリモコンで操作する場合は、操作したい対象のPiPit+セパAの調光信号のみをライトマネージャー-Fxから「OFF設定」（他のPiPit+セパAの調光信号は「ON設定」）を事前に行ってください。

かんたん設定または確実設定によるペアリング設定する場合も、対象PiPit+セパAの1台の調光信号のみをライトマネージャー-Fxから「OFF設定」を事前に行ってください。それ以降の手順はかんたん設定または確実設定と同じです。